

ONCC 10期 ミュージアムへ行こう

第9回テーマ アンディ・ウォーホル・キョウト展

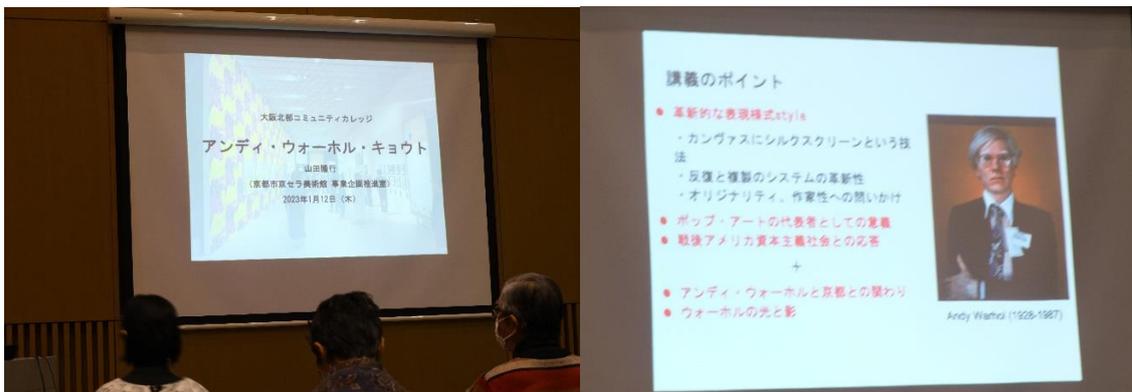
「事前学習」2023年1月12日
豊中くらし館に於いて

講師：京都市京セラ美術館
事業企画推進室 山田 隆行

明けまして、おめでとうございます！

今日は、本年初めての座学。岸本CAのご挨拶に、皆さんも明るく元気な挨拶でスタート。

新年に相応しく今回のテーマは、人気のポップ・アートの旗手“アンディ・ウォーホル展”。レジメに沿ってプロジェクターで画像を映しながら、京都市京セラ美術館の紹介、本日の講義ポイントから当展覧会の魅力について、丁寧に詳しくお話して頂いた。



皆さん！如何でしたか？私にとっては、“綺麗で素敵なポスターだなあ！”の感想程度ですが、オークション市場で約250億円の落札？とは、初心者の私には少しモヤモヤ感が残りました。美術館訪問までに、もう少し下調べをして臨みたいと思います。

「鑑賞会」 2023年1月19日 京都市京セラ美術館

アンディ・ウォーホル・キョウト訪問

参加者32名 CA2名 計34名

AM10:00に京都市京セラ美術館前集合。当館は、旧京都市美術館で現存する最古の公立美術館。いわゆる帝冠様式とよばれる近代的なビルの上に和風の屋根という和洋折衷な建築様式が特徴。リニューアルを機に、通称が「京都市京セラ美術館」となる。この美術館の外観を見ているだけで、慌ただしい日常生活から離れて美の世界に浸りたい思いになりました。



美術館入場後、ここからは班行動となり班長さんの指示のもと、事前学習で教えていただいた事柄を思い出しながら楽しく鑑賞しました。



平日で時間も早かったからでしょうか？思ったほど混雑もなくゆっくり鑑賞できました。また、館内(作品も)はすべてスマホでの撮影OK。カメラはダメ。これは初めてですね！皆さん思い思いに作品を鑑賞し、お気に入り作品はスマホに納めるパターンで楽しんでおられました。

会場は、①ピッツバーグからポップ前夜のニューヨークへ ②ウォーホルと日本そして京都 ③「ポップ・アーティスト」ウォーホルの誕生 ④儚さと永遠 ⑤光と影の5章の構成。

本展のハイライトを次のように語る「今回の展覧会の特別なところは、誰もが知る、“ウォーホルといえばこれ”という作品と、知られざる側面の両方が紹介されているところだ」。展示の前半である「①ピッツバーグからポップ前夜のニューヨークへ ②ウォーホルと日本人そして京都」が、まさにこの知られざる側面を紹介するセクションだ。展示後半は、ウォーホルを代表するシリーズが一挙に展示されている(ホセ・カルロス・ディアス)



何故か？繰り返し観ていると興味深さが増してくる。彼の生い立ち、彼が生きた時代背景、彼の言葉(名言集)などを理解して、もう一度作品を観なおしたいと感じた。

鑑賞後、GOODSコーナーへ。素敵な goods が一杯。特に京都のお店とのコラボグッズが充実。でも、私にはちょっと高い！これで鑑賞会は終了です。

恐縮ですが、2班は例の如くグルメ班長の先導で昼食会場へ。

館内のENFUSE(エンフューズ)で「京の素材のおかずプレート」を美味しく、楽しくいただきました。その後、京都まで来たので、食事中に話題になった岡崎神社へ行こう！と。ニュースで“うさぎのおみくじ”で話題の東天王岡崎神社へ。おまいり、お守り・おみくじを買う人で延々と長蛇の行列にビックリしました。



岸本・廣瀬CA様 本日は、ありがとうございました。

2班 福崎